

獣害対策講座 Vol.21

※タイトルに記載している『雅ねえ』の表記は、本人の原稿どおりで掲載の了承を得ています。

おさらいと予習

前回

前回から、カラスの話。カラスの食べ物、生活とか、被害をとめれる、とめれないの【差】について考えてみた。

〇〇がきくとか▽▽は効かないという話ではなく、あなたの畑からカラスはどのような情報を得ているのか、カラスから見てどうなのよって考えれる人になってほしいって話した。

今回

今回は、私自身がカラスに教えられた獣害全般に通用する対策のコツ、ものの見方の話。

対策の効く、効かないっていう、根本的な部分、もう少しお話しさせてね。このところとても大切だから。人の話で右往左往することなくなるからね。

カラスが来ない理由

最近、ちっとも畑にカラスが来ないっていう時に、その理由は三つしかない。

①怖くて近寄れない

②餌がない、またはあるけど食えない

③ほかにもっといい餌があるこのうち、対策として③は絶対に利用してはダメ。

畑のスイカがやられる、ならば畑から少し離れたところにつつかれて商品にならないとか、キズあり果、変形果なんか集めて、ついでに魚のアラとか生ごみも置いてそっちへ引き付ける餌場つくっておこうみたいなこと考える人がいる。

カラスって縄張りつくるけど餌が多けりゃ縄張りはどうん小さくなる。いつも餌が大量にあれば、縄張りは極小化。

結果、カラスの大群居ついちやうってこともおきる。すると、餌場で争ってつくより畑に分散してるスイカ一人でじゃなかった一羽で独占した方が落ち着いて食べるって気づく。ハイ、一日で全スイカ穴あきになっちゃいます。

対策に使えるのはあくまで①と②ってことね。

これ見てたから、「サル対策で集落の外にカキを植えてサルをそちらに引き付けよ

う」って言いだした集落に大慌てで行ってやめてもらった。

〇〇が効くは見かけの効果

前回話した牛舎の話、確かにロケット花火は怖いんだけど、効いたのは牛舎に入っている人全員がその花火を向けてくる怖いところって学習したから。黄色い防鳥糸が効くってばあちゃんの話は、いつもばあちゃんが畑にいる上に畑がきれいで餌が少ない、もともとカラスにとって魅力ない場所なんだけだし、防鳥糸はちよつとやっかいなだけ、でも、ばあちゃんは防鳥糸は効くって信じてる。

ある畑で昨日までなかった物体、光、音は警戒する。CDぶら下げたりタカカ形したタコ飛ばしたとか、効いた！っていう人いるけど、しょせんは慣れるまで。最初「怖い！」って思うらしいカラスの死骸だって、慣れるのに少し時間かかるだけ。

「アツ、この畑で食べようと思ってきたけど、変なものがある今日はよそで餌さがそ」って別の餌場に行くでしょ、いい餌場あればそっち

に行って食べる。しばらく畑に來ないと人間の方は勝手にその間ずっと効いてると思ひ込む。

これを「見かけの効果」っていう。やっかいなのは、見かけの効果と本当の効果の區別つかない農家が「〇〇は効く」って言いふらす。勉強もしないでマスコミがそれを流すで、売り逃げして儲けた業者がその記事とか使つてよそでも宣伝する、信じて買う人が使つていう悪循環。みんながそれ使う頃にはカラスの方は逆に「あのへんものがぶら下がってるところには餌がある」って学習済ませちゃう。

音、光、ニオイで見かけの効果以上に効くものはないって覚えてね。あつ、特にカラスはニオイに鈍感、それと超音波は聞こえないから、騙されちゃダメですよ

動物対策グッズも同じ

ホームセンターなんかの獣害コーナーで売られてる商品の中で音、光(色)、ニオイで撃退なんて書いてあるのはすべて「見かけの効果」だけ。イノシシもシカもサルも臆